

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
島岡哉・早川公・織田暁子		aoda@jindai.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 a	JNAa-171001-2	6人	

Ⅰ. 調査実習に関するコメント	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 量的社会調査の基本概念を講義形式で学ぶとともに、学生は実際の社会調査の全工程を実践をとおして学習した</p>	
Ⅱ. 調査の企画・設計（デザイン）	
1. 調査のテーマ／領域： 大学生の生活と意識に関する調査	
2. 調査の内容／概要： 大学生の学校内外での生活、とくにSNSの利用や生活満足度、ファッション、同性愛に対する受容感などについて調査した。	
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）： 仁愛大学の学生を対象に調査を行った。想定母集団は人間学部コミュニケーション学科の全学生および健康栄養学科の全学生だが、無作為抽出はおこなわず、授業時間を利用し集合調査を行った。回収標本数は、278ケース。	
4. 主な調査項目： 通学手段、アルバイトの有無、内容、収入、SNSの利用の頻度、友人関係、生活満足度、ファッション、ブランドに対する知識や意識、同性愛に関する学習経験、同性愛者に対する意識など。	
Ⅲ. データ収集の方法と結果	
5. データ収集（現地調査）の方法： 受講生が調査員となってゼミおよび授業で調査票（A票・B票）を配布し、その場で回収した。	
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2017年9月～2017年10月。調査地（授業クラス）は20地点。調査員数は5名。	
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）： 回収率は278/278で100%。授業時間を利用したため、回収率は非常に高かった。点検の結果、無効票と分類された回収原票は2件あったが、データの質はおおむね良好だったと評価できる。有効回収票数は276、有効回収率99.3%。	
Ⅳ. データ分析の方法と結果	
8. データ分析／解釈の方法： 2変数の関連をみるクロス集計や分散分析を中心に、一部は3変数以上の関係をみる重回帰分析や交互作用効果を検討する多変量解析を行った。	
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）： 同性愛者に対する意識について、A票ではレズビアンについて、B表ではゲイについて尋ねた。その結果、男性は、レズビアンに対する受容感のほうが、ゲイに対するものより高いことがわかった。	
10. 報告書刊行の予定と概要： 受講生による分析結果をまとめた報告書が2017年度末に発行された。	